

I 研究の概要

1 研究主題

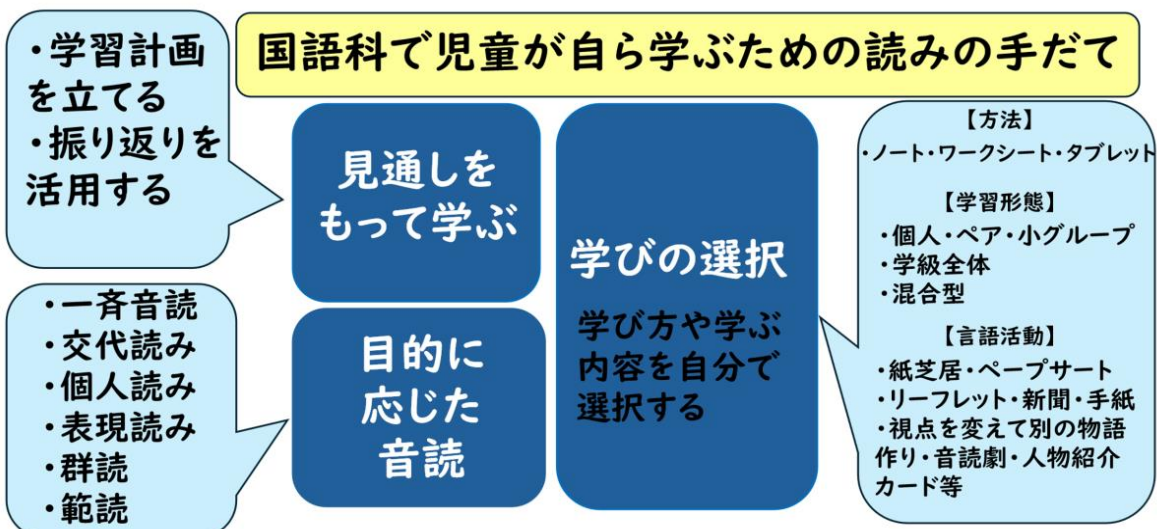
自ら学ぶ力を育てる国語科の授業づくり
～読みの学習を通して～

2 主題設定の理由

昨年度、本校では「自ら学びに向かう児童の育成～個々の児童に適した授業展開を通して～」を中心に研究を進め、児童が自ら学びたいと思う「めあて」を設定し、振り返りを行うことで、自分の学びの成果や課題を自覚したり、児童が自ら学びに向かったりすることができると仮説を立てた。それにより、全学年で児童が学習のゴールを自分事として捉え、学習計画を立てる活動が有効であった。低学年は基本的な学習習慣を身に付けるため日々の指導を繰り返し行い、正しい鉛筆の持ち方を身に付けたり、全員が音読に参加したりした。中学年の学習計画立案で児童の主体的な選択が生まれた。高学年は児童が自ら学習計画を立てることや、話し合いの柔軟な工夫により、主体的な取り組みが実現された。

物語文の学習では教材との出会いの工夫により、児童の「もっと知りたい」という意欲を高めることができた。説明文の学習では課題提示の工夫により、児童が根拠をもって説明する力が育成された。また、音読と聞き方の指導により児童の相互理解が深まり、授業の振り返り記述を通じて自分の考えが形成されるようになった。

一方で、学習の内容や進め方については、教師が設定した枠組みの中で活動する場面が多く、児童自身が学びの目的や方法を選択し、主体的に学びを進める段階には至っていないという課題が明らかになった。昨年度の研究実践を踏まえて、「児童が自ら学ぶための読みの手だて【学習計画を立てる】【学びの選択】【音読】」を設定した。振り返りやまとめは、単元の中で適宜実施していくこととなった。今後、単元ごとに「児童が自ら学ぶための読みの手だて」を工夫することに加えて、学び方を選択させる授業づくりを工夫することを課題とした。



3 研究構想図

研究構想図

